

私たちは歌で 戦争を支えた

—民衆の自己表現、戦時歌謡—

一九二七年の「山東出兵」に始まる日本の「十八年戦争」は、文学・芸術・思想など文化諸領域の自由を徹底的に奪いました。しかし、その戦時下はまた、「国民」が澆渌として声を上げ、自らを表現した時代でもあったのです。その時代が生んだ歌謡曲（流行歌）を一緒に聴きながら、そこに顔をのぞかせる私たち自身の姿を通して、戦争と反戦・自由を考え直してみましよう。



▲『新編國語讀本 尋常小學校兒童用 卷二』（1901年、帝國書籍）



お話 池田浩士さん（京都大学名誉教授）

◇ プロフィール ◇

1940年生まれ。京都大学、京都精華大学に在職の後、現在は自由業。主な著書＝『大衆小説の世界と反世界』、『ファシズムと文学』、『闇の文化史—モンタージュ 1920年代』、『抵抗者たち—反ナチス運動の記録』、『[海外進出] 文学・論』既刊3冊、『虚構のナチズム』、『ヴァイマル憲法とヒトラー』、『ドイツ革命』、『ボランティアとファシズム』。

日時: 2019年12月11日(水) 18:30-21:00 (開場 18:00)

会場: 東京藝術大学 上野キャンパス 音楽学部 5-109 教室

※入場無料、申込不要。藝大生と一般市民のための講座です。

お問い合わせ: kenpou.geidai@gmail.com (川嶋)

主催: 東京藝術大学音楽学部 楽理科 / 後援: 日本ペンクラブ
共催: 自由と平和のための東京藝術大学有志の会

